



花卉研の日々

花卉園芸学研究室 学部4年

杉田 晴哉

花葉会の先輩方、はじめまして。花卉研 学部4年生の杉田と申します。私が今筆を執っているのは9月の上旬、植物を苦しめた真夏の暑さがひと段落したものの、まだまだ残暑が厳しく、これからは台風の動向にも目が離せません。私は現在ダリアを実験材料としていますが、ダリアは暑さに弱く、なんとかこの夏を工夫してしのいでいます。まともに植物を育てたことなかった私は、1年前この研究室に配属されてきたときは花の管理など右も左もわからず、それ故に実験材料を揃えるための面倒な管理作業としか感じていませんでした。しかし1年間毎日顔を合わせて世話をしていると、いつのまにか、どうやったら綺麗に育つだろうか、なぜ元気にならないのかと花のことばかり考えるようになり、不思議と愛着が湧いていました。花への愛着を不思議と語るほど関心がなかった私が、花のことで頭がいっぱい、なんて昔の友達に言ったらなんて言われるか。

それでは今の研究室の状況について僭越ながら少し紹介していきたいと思います。現在花卉研には10名弱の学生が所属しており、ラン、ダリア、トルコギキョウなどを材料として1人1テーマが割り振られており、「花」に関わる様々な現象を各々が全く違った方向性で研究しています。私は病理を研究していますが、周りにはいつも自分とは異なるさまざまな実験や栽培を行う人たちがいて、絶えず刺激をもらっています。実験室にはDNAやRNAのサンプル、培養室には植物が挿さった培地が所狭しと並び、様々な実験機器によって日々植物の未知が解明されようとしています。もちろん全員が圃場、一部は人工気象室で花を栽培しており、実験のサンプルのほとんどがそこから生まれます。

「フィールドからDNAまで」の花卉研の合言葉の通り、目的の植物を健全に栽培し、高度な実験をしっかり行う、この両立が質の良い研究を行うために必須となります。研究のための栽培と趣味の栽培は全く違うと、この研究室に入って痛感しました。

そんないろんな研究をしている我々も、週に二度の作業では全員が圃場に集まり力を合わせます。高度な実験はしっかりとした栽培から。健全な植物の育成と

効率の良い栽培環境の維持・向上のため計画を立て、作業をしています。草刈りや作業場の整理、ハウスの修復などいろんなことをしましたが、特に今年は実験材料のダリアをたくさん植えて、今圃場はハウスの間をぬうように一面色とりどりのダリアが咲き乱れ、まさにダリア畑になっています。かつてはペチュニアが全盛期の時代もあったと聞きますが、現在はダリア全盛期といっても過言ではありません。花色豊かなダリアがズラッと咲いているのはなかなか見応えがあり、歴代どんな花がこの圃場に咲いていたのかな、先輩たちもまたその花たちに魅せられたのかな、と思ったりもします。このダリアたちもいつかは他の花に代わるのだらうなとも思います…。ちなみに花卉研では珍しいのかもしれませんが、今学生は1名の留学生を除いて全員男で、男子大学生が部屋に集まって花と戯れているというちょっとおかしな状況になっています。それもまた楽しいのですが。

10月からは新しい3年生3名に加えて留学生2名も増え、ガラッと花卉研の顔色が変わりそうです。優秀な先輩や同期から学んだことを有望な後輩へ少しでも伝えられるか心配ですが、自分なりに出来ることをやっていこうと思います。そして花卉園芸学の最先端の知に触れられる今の環境、先人達の成果に感謝し、研究生活に精進して参ります。今後とも我々未熟な学生たちへのご支援、ご指導をよろしくお願いいたします。



スマートライアル